

一 修村寺改年三月戌月
但修和修記

一 修村寺改年三月戌月
但修和修記

一 修村寺改年三月戌月
但修和修記

一 修村寺改年三月戌月
但修和修記

一 修村寺改年三月戌月
但修和修記

毛雞とすは歌ふ

やういふ

毛雞とすは歌ふ

毛雞とすは歌ふ

毛雞とすは歌ふ

毛雞とすは歌ふ

毛雞とすは歌ふ

毛雞とすは歌ふ

毛雞とすは歌ふ

毛雞とすは歌ふ

毛雞とすは歌ふ

毛雞とすは歌ふ

毛雞とすは歌ふ

毛雞とすは歌ふ

毛雞とすは歌ふ

毛雞とすは歌ふ

毛雞とすは歌ふ

毛雞とすは歌ふ

毛雞とすは歌ふ

毛雞とすは歌ふ

毛雞とすは歌ふ

外

ワヤト

（とあり）近所橋中（？）

ら

（？）御園町（？）

／＼

／＼

（？）

（？）

（？）

（？）

／＼

（？）

（？）

（？）

（？）

七十一

一諸秤御改文久二年戊四月
但諸控帳ニ記し

七十二

一与頭格七郎左衛門病死願同年八月
但諸控帳ニ記し

七十三

文久二戊七月
一麻疹流行諸民死失多く二付、村々氏神社ニおゐて
御祈禱被仰付候、委細旧記御触帳ニ写ス
右二付御受書付控

沼田郡八木村氏神社ニおゐて御祈禱済御注進書附

沼田郡

覚

八木村

一此節世上急病流行ニ付、村々氏神社ニおゐて御祈禱被為
仰付、社毎江銀三枚ツ、御備被為在、広太之御仁恵御趣意
下方江不洩様申談候処、一同奉感伏、依之当月廿五日・廿六日
昼夜共当村氏神社光廣八幡宮・細野八幡宮両社ニおゐて
社人左守抽丹誠御祈禱執行中、私共始長百姓共相詰氏子共も
不残賑々敷社参仕、御札守・御洗米等家別頂戴仕、
無滞相済、一同難有仕合奉存候、此段書付を以申上候、已上

戊七月

当分庄屋

正三郎

庄屋

忠左衛門

与頭

平左衛門

同

弥五郎

同

庄左衛門

組合割庄屋

正三郎殿

覚

沼田郡八木村

一御銀六枚

但式社分

諸秤御改 取引・年貢の
不正防止目的の為の強
制検査
諸控帖 村役人が触
書・願書や村内諸事を記
した帳面、御用留
御触帖 藩の触書など
を書き写した帳面、御用
留
御受書付 藩命の受
領・承諾書

右^者 当度氏神社へ御備御祈祷料御下渡被為
遣難有奉頂戴候、已上

戌八月十九日

庄屋式人
与頭三人

沼田郡

御役所

一銀六枚

式社分

此銀貳百五十八匁

御下ケ銀

内

拾壹匁四分

御神酒六升
壹匁九分ツ、

三匁四分

御久米貳升
壹匁七分ツ、

四匁八分

諸口六状

拾三匁八分

かつ魚六本

貳匁四分

うり六本

壹匁八分

もゝ六十

貳匁五分

かわらけ五十

壹匁五分

しいたけ

四分五厘

水引廿

七厘

杉ばし十ぜん

貳匁四分

三嶋のり

四厘

塩壹合

壹匁六分

十二枚代

六匁

蠟燭代

外

四匁五分

与右衛門御祈祷中年行司代
并前日かべ町買物行共三日分

三匁

右二付祇園町へ御寄村之節、役人・社人共三人
同所ニ而認メ三頭代、角屋私

貳分

同所ニ而 ろうそく代

五拾九匁八分六厘

り壹匁八分 二ヶ月分

合六拾壹匁六分六厘

村辻方かへ払置候ニ付、立戻し

外貳拾四匁五分

八月廿一日用場三而
神酒披露之節入用ノ

八拾六匁壹分六厘

差引百七拾壹匁八分四厘 過上

戌八月廿一日左守殿江 過銀相渡ス

右之通り此度御祈祷料社人江 納銀之内を以国恩祭として

閏八月朔日両社へ壹釜ツ、御湯立社人方相備候事

久米・供米 神仏に
お供えする米
諸口 諸口紙

村辻 村全体
用場 村で公務を
行う場所
過上・過銀 御下げ
銀と支出銀の差引
き残額